



翻訳会社だからできる  
多言語翻訳のランニングを考慮した  
CMS の選び方と運用

CMS を、一次コストやドキュメント管理機能だけで  
決めようとしていませんか？

CMS は、ドキュメントをトピック管理することで流用率を高めたり、変数や相互参照を利用してユーザビリティを改善したり、自動組版で従来の DTP コストを削減したりなど、ドキュメント管理の体系化や効率化の面でさまざまなメリットがあります。ただし、その豊富な機能が多言語翻訳の運用面において数々の障壁を生み出す可能性があり、想定していたほどの導入効果が出ないこともしばしば聞かれます。多言語展開運用までを考慮した CMS の導入は、ぜひホンヤク社にご相談ください。

## ホンヤク社のソリューション例

### トピックとストーリーのバランス



流用率をなるべく下げずに  
文脈や文章の流暢性を維持

### 翻訳メモリの中長期的運用



過去の TM と未来の TM の  
ベストミックスを提案

### 翻訳工程を見据えた再利用機能



インラインタグなどの使用と  
翻訳作業の効率を両立

### CMS オペレーション



自動化できない工程を  
言語のエキスパートが支援

お問い合わせは [www.translatejapan.com/contact](http://www.translatejapan.com/contact) または  
[info@translatejapan.com](mailto:info@translatejapan.com) まで

9/9 (金) に  
ウェビナー開催決定！  
詳しくは [こちら](#)